

第4章 空間計画

4.1 空間計画の全体像

(1) ガーデンミュージアムの考え方

本計画の基本コンセプトである『ガーデンミュージアム*』は、自然風植栽による「ナチュラルガーデン*」を基調としながら、「バイオガーデン」、「エコ・ファームガーデン」、「エコ・ウェルネスガーデン」、「マルシェガーデン」の4つのガーデンにより構成されます。

4つのガーデンは、周辺の土地利用や環境条件に応じて配置され、各ガーデンが濃淡を持ち、重なり合いながら徐々に移行するように展開することにより、変化に富んだ景観と空間の機能が調和し、多様性を発揮する空間構造を目指します。

<周辺の環境条件>

<ガーデンミュージアムを構成する4つのガーデン>



<各ガーデンの配置の考え方>



ゾーニング*による配置計画ではなく、周辺環境・土地利用に応じ各ガーデンを配置し、各ガーデンが濃淡を持ち、重なり合いながら徐々に移行するように展開します。

注：文中の*は「参考資料 用語解説」で用語の解説を記載しています。

(2)各区分整備の考え方

基本構想における区分別整備方針を踏まえた上で、周辺環境との調和やガーデンミュージアムのコンセプトを反映し、より具体的な整備テーマを以下に設定します。区分①(琵琶湖～メロン街道)は、河川区域として県による維持管理を継続するため、基本計画では対象外としました。

<区 間>	< 整 備 テ ー マ >
<p>区分① L=約 1.3km</p>	<p>河川環境を保全するみどりの創出</p> <p>○河川整備区分として、滋賀県により琵琶湖や河川固有の自然生態系や自然環境を保全します。</p>
<p>区分② L=約 1.2km</p>	<p>農と人の共生</p> <p>○周辺に農地が広がる区分②では、「農と人との共生」をテーマとします。周辺環境と一体化する菜園、ふれあい牧場などの農的な空間を配置し、人と土・人と動物とのふれあいの場や、食を通じた農家と都市住民の交流の場などを整備します。</p>
<p>区分③ L=約 1.7km</p>	<p>森と人の交流</p> <p>○農地と市街地の双方に近い区分③では、「森と人の交流」をテーマとします。都市環境に潤いをもたらす雑木林の再生を図り、身近な自然に包まれ、様々な市民活動や健康づくり・スポーツに親しめる場を整備します。</p>
<p>区分④ L=約 1.2km</p>	<p>環境と人の共生</p> <p>○市街地内を通り、運動公園や民間開発予定地に隣接する区分④では、「環境と人の共生」をテーマとします。隣接する公園との一体整備や民間開発に際しては、人の営みと自然が調和する環境共生型の都市づくりを進めます。</p>
<p>区分⑤ L=約 0.9km</p>	<p>人と人の交流</p> <p>○中心市街地に位置する区分⑤では、「人と人の交流」をテーマとします。ガーデンミュージアムの拠点として各種ガーデンの合間に様々な集客施設を配置し、中心市街地や草津宿と一体となって、市内外の人々が集い・楽しめるにぎわい空間を整備します。</p>
<p>区分⑥ L=約 0.7km</p>	<p>時と人の出会い</p> <p>○過去の主要動線である「東海道」と現在の主要動線である「国道1号」・「JR東海道新幹線」が交わる区分⑥では、「時と人の出会い」をテーマとします。時を越えて、人が行きかう環境を活かしながら、草津の歴史と未来をつなぐやすらぎ空間を整備します。</p>

注：文中の*は「参考資料 用語解説」で用語の解説を記載しています。

(3)全体配置計画

①ガーデニングコミュニティの配置計画



様々なガーデンを各区間に展開するとともに、ゆるやかに変化させながら新たなガーデンにつながるようガーデニングコミュニティを形成します。

②各区間の導入施設例と市民活動例

各区間の整備テーマに基づき、導入施設例、市民活動例を示します。

区間	区間②	区間③	区間④	区間⑤	区間⑥
整備テーマ	農と人の共生	森と人の交流	環境と人の共生	人と人の交流	時と人の出会い
導入施設例	<ul style="list-style-type: none"> ●ふれあい牧場 ●農園（カフェと提携） ●貸し農園（菜園ガーデン） ●駐車場 ●管理棟（研修室、カフェ） 	<ul style="list-style-type: none"> ●自然環境学習広場 ●公園駐車場（芝生広場） ●市民の森 ●健康広場 （グラウンドゴルフ、ゲートボールなど） ●イベント広場 ●屋外アーススペース ●フットサル場* ●自然ふれあい広場 	<ul style="list-style-type: none"> ●エコパーク ●セラピー空間 ●エコテラス* ●観光駐車場 	<ul style="list-style-type: none"> ●マルシェ広場（市場） ●イベント広場（草津宿場まつり、街あかり華あかり夢あかりなど） ●カフェ ●セレクトショップ* ●レンタサイクル ●野外小劇場 ●駐車場 	<ul style="list-style-type: none"> ●東海道をテーマにした街道の整備
市民活動例	<ul style="list-style-type: none"> ●軽スポーツサークル ●エコロジーサークル ●自然学習活動 ●絵画サークル ●写真サークル ●演劇サークル ●音楽サークル ●菜園講座、菜園サークル ●食育サークル 	<ul style="list-style-type: none"> ●各種イベント ●コミュニティガーデン*活動 ●ウォーキングサークル ●地域活動（イベント開催など） 			

注：文中の*は「参考資料 用語解説」で用語の解説を記載しています。

4.2 「自然風を基調とする」植栽計画

(1) 植栽計画の考え方

ガーデンミュージアムの植栽計画は、全体を通じて「自然風」の植栽デザインを基調とするとともに、以下の考え方にに基づき、従来の一般的な公園などにみられる植栽とは違った、心身が癒され、生きる力が得られる場にふさわしい質の高い植栽計画とします。

■ナチュラルガーデン*仕様

造形的な「庭園風」「仕立て風」の植栽計画はとらず、植物が本来有している自然な姿を生かし、その生命力を生かす「自然風」を基調とします。

■多様な植生

高木、中木、低木、地被類*（草花）や、常緑・落葉を組み合わせ、自然界に見られるように、同一樹種のまとめ植えではない「混植」を基本とします。

■育つ植栽景観

樹木は自然樹形に近づけ、草花は多年草*を主とすることで、年月とともに美しく成長する姿を目指します。

■季節感の演出

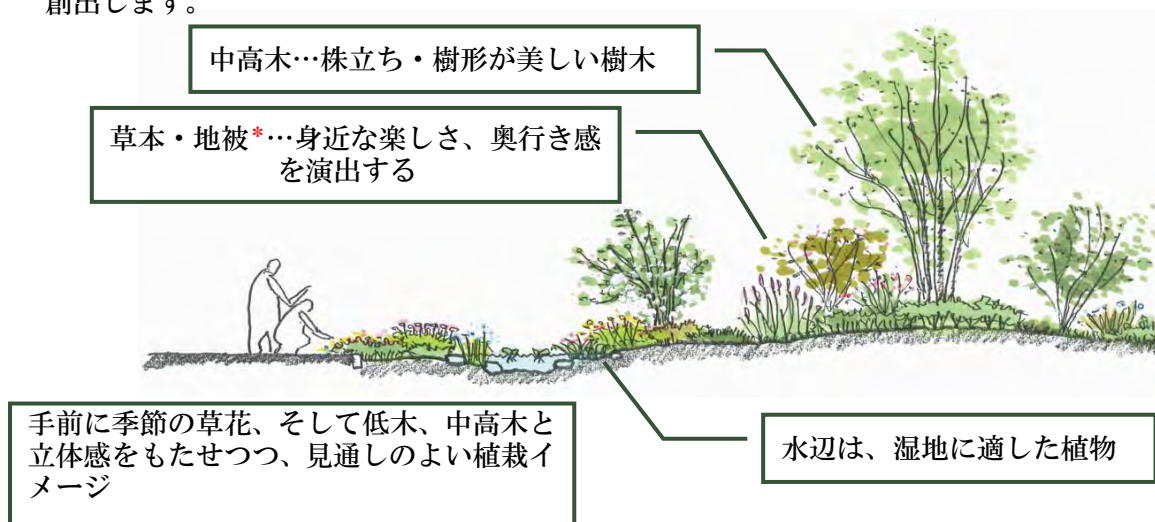
季節の微妙な移り変わりを感じられるよう、多様な高木や中低木の樹木や草花を組み合わせることで、常に旬の花、実、紅葉、新緑が楽しめるように演出します。

■生物多様性*の取り入れ

バタフライガーデン*、水生生物の棲み家となる水辺植生、野鳥を呼ぶ実のなる植生などを配植し、人と生きものがふれあうことのできる環境を作ります。

■バリエーション

広葉樹を主体とする混植により、緑軸*全体にナチュラルガーデンとしての統一基調を保ちながら、各ゾーンに導入する機能・施設に合わせ、低木や地被類（草花）、水辺空間などにより、特色あるガーデンデザインを施すことで、変化と魅力に富んだ多彩な緑地景観を創出します。



注：文中の*は「参考資料 用語解説」で用語の解説を記載しています。

(2) 基調となる植栽樹種

草津市に見られる植生環境としては、丘陵地に残されるアカマツーモチツツジ群集、神社や仏閣の周辺に残されるシイ・カナメモチ群集が挙げられます。また、平地では、アカマツに変わってコナラが優先する一般的な雑木林が分布しています。

草津川跡地に現存する樹木としては、草津川の代名詞でもある中心市街地部の桜並木のソメイヨシノや、エノキやムクノキの大木が区間を通して点在し、特徴的な空間を形成しています。本計画では、それら既存植生を視野に入れ、雑木林や草原をモチーフ（表現の主題）にしたナチュラルガーデニングの考え方により、変化に富んだ美しくバリエーションのある植栽計画を目指します。

ガーデンミュージアムの軸となる代表的な高木の花期と実のなる時期をまとめました。

雑木の庭における代表的な高木の花期カレンダー

種類	名称	花の色	○落葉を示します												備考		
			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月			
高木	○アオハダ	緑白色															
	○アカメヤナギ	黄緑色															
	○イロハモミジ	赤					●	●	●								
	○ウワミズザクラ	白															
	○エゴノキ	白															
	○エドヒガン	淡紅色まれに白															■
	○エノキ	黄															
	○オオモミジ	紅色															
	○カスミザクラ	白色またはわずかに紅色															
	○コナラ	樹褐色								●	●	●					
	○コバノネリコ	白															
	○タカノツメ	黄緑色															
	○ネムノキ	淡紅色															
	○ハンノキ	紅色															■
	○ヒメシャラ	白															
	○ミズキ	白															
	○ムクノキ	淡緑色															
	○ヤマザクラ	ピンク															■
	○ヤマハゼ	黄緑色															
	○リョウブ	白															
	アラカシ	黄															
	カクレミノ	黄緑色															
	シロダモ	黄褐色															
	ソヨゴ	白															
	ネズミモチ	白															
	ホルトノキ	帯黄白色															
	ヤブツバキ	白・赤															
	○サルスベリ	紅・ピンク・紫・白															



株立ちの姿が美しい
コナラ



盛夏に鮮やかな花をつける
サルスベリ



樹の肌が美しいヒメシャラ



注：文中の*は「参考資料 用語解説」で用語の解説を記載しています。

ガーデンミュージアム*の見所は、季節の繊細な移り変わりを表現する花々です。サクラに代表される花の見事な高木もありますが、一年を通じて日々の暮らしに彩りを添える花や実は、中低木が中心となります。

雑木の庭における代表的な中低木の花期カレンダー

種類	名称	花の色	花期												備考		
			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月			
中低木	○アキグミ	白							●	●							
	○ガズミ	白							●	●	●						
	○キンキメザクラ	白または淡紅色															
	○コバノガズミ	白							●	●							
	○コバノミツバツツジ	紅紫色															
	○シラキ	黄								●	●						
	○ダンコウバイ	黄							●	●							
	○ナツハゼ	淡黄褐色															
	○ネジキ	白															
	○マルバウツギ	白															
	○マルバハギ	紫紅色															
	○マルバマンサク	黄															
	○ムラサキシキブ	薄赤色								●	●						
	○ヤマツツジ	赤															
	○ヤマハギ	紅紫色															
	ウンゼンツツジ	淡紅紫色															
	クチナシ	白															
	センリョウ	黄										●	●	●	●		
	ナワシログミ	白	●	●													
	ナンテン	白										●	●	●	●		
	ヒサカキ	白									●	●	●				
	ヒメズリハ	赤紫色・淡黄～緑															
	マサキ	緑白色										●	●	●	●		
	マルバグミ	黄白色															
	マルバシャリンバイ	白															
	マンリョウ	白									●	●	●	●	●		
	モチツツジ	淡紅紫色															
ヤブコウジ	白									●							



古くから日本人に親しまれるヤマハギ



不思議な色合いの実が美しいムラサキシキブ



独特な赤い花色を持つヤマツツジ



赤い実と照葉が魅力的なヤブコウジ

注：文中の*は「参考資料 用語解説」で用語の解説を記載しています。

草本類を高木や中低木と組み合わせ、植栽地に大小の植物が重なることで立体感を生み出します。さらに、草本類を多様にする事で、花や葉の色や香り、実の色、形など季節感と自然感を生み出します。

多様な草本類が、ガーデンミュージアムをより美しく楽しく演出します。

雑木の庭における代表的な草本の花期カレンダー

種類	※ハーブ 名称	花の色	●実のなる時期												備考		
			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月			
草花 40cm ~ 50cm	ローズマリー※	多色															
	レモンバーム※	白															
	レモンバーベナ※	白															
	キキョウ	紫															
	クリスマスローズ	白・ピンク															
20cm ~ 30cm	ラベンダー※	紫															
	オレガノ※	ピンク・紫															
	シロタエギク	黄															
	ブルーデージー	青															
	ツワブキ	黄															
	ギボウシ	紫															
	バーベナ※	多色															
	シャガ	淡紫															
	ヤブラン	紫															
	グランド カバー 10cmまで	ツルニチニチソウ	紫														
ヒメイワダレソウ		白															
アジュガ		ピンク・紫															
ヒガンバナ		白・赤															
スイセン		黄															



春から秋まで長期に楽しめるバーベナ



紫花の代表種キキョウ



カーペット状の紫葉が魅力的なアジュガ



山間の湿地などに自生し、花が美しいギボウシ

注：文中の*は「参考資料 用語解説」で用語の解説を記載しています。

(3) 各ガーデンにおける植栽例

ガーデンミュージアムは、さまざまなテーマガーデン*が連続して展開することで、変化と楽しみのある空間を作ります。代表的なテーマガーデンの植栽例を以下に紹介します。

■ウォーターガーデン

水辺を取り入れたガーデン。水生・湿性植物を植栽し、様々な生物が生息する水辺環境をつくります。

【主な植栽例】

サギソウ、カキラン、ノハナショウブ、サワヒヨドリ、ミズギボウシ、モウセンゴケ、ミミカキグサ、イシモチソウなど



■フォレストガーデン

雑木林にみられる植栽構成を取り入れたガーデン。四季や生命力を感じる空間をつくります。

【主な植栽例】

アオダモ、ナツハゼ、ソヨゴ、ヤマザクラ、シラカシ、シャラ、ヤマモミジなど



■野草ガーデン

自然界によく見られる野草を取り入れたガーデン。様々な野草で足元を楽しませ、懐かしさや、爽やかさ、さらには歌や文学をも思い起こさせます。

【主な植栽例】

オダマキ、ギボウシ、シラン、ホトトギス、シヤガ、ヒガンバナなど



■菜園ガーデン

野菜やハーブ、果物などを収穫できる「おいしい」庭を取り入れたガーデン。菜園の周囲は、様々な花木で美しい風景とします。

【主な植栽例】

野菜類、ベリー類、ハーブ類など



注：文中の*は「参考資料 用語解説」で用語の解説を記載しています。

4.3 「集客と自立運営へ」にぎわい空間計画

(1) にぎわい空間計画の考え方

草津川跡地では、単なる公園・緑地として整備するのではなく、市民や市民団体、民間企業などが緑地の維持・管理、レクリエーション施設の運営などに積極的に参画し、人々が集い・楽しみながらみどりを育み、また、そこでの遊びや文化活動などを通じ、自己実現やコミュニティ形成の場として機能するにぎわいの空間づくりを目指しています。

にぎわい空間は、豊かなみどりを背景とする魅力的なガーデン空間と一体的に立地する「にぎわい施設」を拠点として形成します。ガーデンミュージアム*を構成する各種ガーデンごとに、多様なニーズに対応した特色ある「にぎわい施設」を配置することで、様々な世代の市民や来訪者が集い・交流する契機を仕掛け、まちのブランドイメージの向上と活性化につなげます。

また、これらにぎわい施設の運営に関しては、民間事業者などの参入も想定し、草津川跡地の維持管理費用を補う収入源としての活用も検討します。

(2) にぎわい施設計画

にぎわい施設は、新たなライフスタイル*を反映した先進的なニーズに対応する施設内容を目指し、周辺環境・土地利用との調和や相性、市街地からのアクセス*のし易さなど、施設機能に応じ立地適性を踏まえた配置とします。以下に、にぎわい施設の例を示します。

① 田園系にぎわい施設

周辺に農地が広がる区間②においては、農的な環境を活かしながら、都市住民などにおける土や自然、動物とのふれあい、食への関心などのニーズに応えるにぎわい施設を配置します。

■菜園ガーデン*

近年、ニーズの高まりが著しい、土とのふれあいに応える施設として、貸し菜園などの整備が考えられます。

ガーデニング*の手法を応用したハイセンスな菜園・周辺施設の修景を図り、ガーデンミュージアムにふさわしい景観のもと、ロッカールーム・貸し農具・カフェなど支援施設の充実、収穫したものをその場で食べることのできる休憩スペースなどの設置を想定します。

また、農家と連携した農業指導の充実など、にぎわい施設の運営を介した地域コミュニティの再生、地場産業の振興なども視野に入れます。



注：文中の*は「参考資料 用語解説」で用語の解説を記載しています。

■ふれあい牧場

農地と一体化したのどかな環境のもと、癒しや情操教育などのニーズに対応する施設として、動物とのふれあいを活用した施設の導入が考えられます。動物の飼育体験や見学・ふれあいなどを提供する牧場的な体験型施設が想定され、ふれあい動物園、乗馬体験、アニマルセラピー*などの機能が考えられます。

ふれあい牧場は、市街地に近くアクセス*の良い浜街道交差点付近に配置し、農的にぎわい空間において集客の核となる施設とします。



■農産物直売所*

スローライフ*や健康志向を背景として、オーガニック*や地産地消、食育など、食に対するニーズの高まりがみられ、同ニーズに応える施設として、区間③の浜街道交差点付近などにおいて農産物直売所の設置が考えられます。

近年、顔の見える農作物販売ルートとして、生産者と会員契約する直販所などが普及しつつあり、消費者ニーズに応えるとともに、生産者の意欲向上に結び付きます。



注：文中の*は「参考資料 用語解説」で用語の解説を記載しています。

② 健康・文化系にぎわい施設

市街地に隣接する区間③、区間④においては、日常的なアクセス*に恵まれるとともに、草津川跡地に沿って学校、運動公園などの都市施設が立地しています。生活空間に隣接する緑地環境を活かしながら、これら都市施設と連携したにぎわい機能を展開することとし、スポーツや健康づくり、コミュニティ活動や環境学習などの拠点となるにぎわい施設を配置し、人々の日常的なレクリエーションや文化活動などのニーズに対応します。

区間⑤⑥においては、東海道や中山道、草津宿などが所在する立地を生かし、地域の歴史に触れ、学ぶことのできる空間を整備します。

■スポーツ施設

余暇の増大や健康志向などを背景とする人々のスポーツへのニーズに応え、屋外広場を活かしたフットサル*、グラウンドゴルフ、ウォールクライミング*、スケートボードなど、専門的な施設を備えたスポーツ施設の導入が考えられます。

施設整備や運営に民間事業者の参入を図ることで、トレーナーによる指導や本格的な器具・設備などを備えた高度な施設整備が期待できます。

また、シャワーやロッカールームを、散策やジョギングに訪れている一般利用者に有料で開放するほか、カフェを併設するなど、収益基盤を強化しつつ、草津川跡地の利便性を向上する対応も考えられます。



■市民活動広場など

市街地内に連なる身近な緑地環境を活かし、学校などの都市施設との連携を図りながら、市民の文化・学習活動やイベントなど、多様なコミュニティ活動のニーズに対応することとし、広場、ビオトープ*、里山など、人々が集い・活動する場を配置します。

プレイパーク*のように、ボランティアリーダーのもと、子ども達の自由な遊び・学習を見守るなど、市民参加型の施設運営も考えられます。



注：文中の*は「参考資料 用語解説」で用語の解説を記載しています。

■市民の森

市民の自然とのふれあいを求めるニーズに応え、草津川跡地を社会貢献・コミュニティ形成の場として積極的に活用していくため、市民が主体的となって、植樹や維持管理などに取り組む、「市民の森」を設置します。

そこでの森づくりを契機として市民団体を立ち上げるなど、コミュニティ活動の初動の場として活用するほか、森づくりを通じて下草刈りや間伐の講習、炭焼き体験など、様々な市民団体活動を展開し、草津川跡地を維持・運営していくための人材育成の場として活用していきます。



■東海道歴史広場

区間⑤⑥は、東海道や中山道、草津宿などの歴史資源が所在する立地を生かし、街道文化をテーマにしたにぎわいのある空間を演出します。

ゲート風の工作物などにより、草津宿へとつながる導入部分を創設するランドマーク*を形成するほか、植栽や舗装材などにより、歴史文化的な環境・景観づくりを行い、案内板や休憩施設などを設け、市民や街道を散策するビジターなどが、草津宿などの歴史に触れ、学べる場とします。



注：文中の*は「参考資料 用語解説」で用語の解説を記載しています。

③ 都市系にぎわい施設

中心市街地に位置する区間⑤は、駅至近の立地を活かし、ガーデンミュージアム*に人を呼び込む中心的なにぎわい空間とし、また、中心市街地活性化基本計画と連携し、草津駅前を中心とした地区全体の回遊性を高め、交流人口の増加を促す拠点施設として整備します。

各種テーマガーデン*と一体的に、商業・飲食などの都市型の集客施設を配置し、みどりとにぎわいが調和するハイセンスで魅力的なアミューズメント空間*を演出します。

■カフェ・レストラン

ビジターがガーデンを眺めながら、休憩や食事のできる場として、カフェ・レストランを配置します。テラス席など、屋外環境を活かした施設デザインとし、みどりを楽しみながらオーガニック*やスローフード*など、新しい食文化を体感できる場とします。

菜園で収穫するハーブや野菜を活用したメニューづくりなど、他のにぎわい施設と連携した施設運営を図るほか、クッキングスクールの開催など、コミュニティ活動展開の場としても活用します。



■セレクト・ショップ

にぎわい施設の核として、ハイセンスなセレクト・ショップ*の導入を図ります。テーマガーデンと一体化した店舗デザインを図ることで、まちなかのショップにはないみどり豊かで、ファッショナブルなにぎわい空間を演出します。単に物を買うだけでなく、みどりの合間に見える店構え、ディスプレイ自体が新しいライフスタイル*を発信するような施設づくりを目指します。

ガーデンミュージアムならではの商業施設として、ガーデニング関連、ナチュラル志向のセレクトショップなどが考えられます。

また、地場産業の振興策として、草津宿の伝統工芸品などのアンテナショップなどが考えられます。



注：文中の*は「参考資料 用語解説」で用語の解説を記載しています。

■体験型施設

セレクト・ショップ*の合間にはカルチャースクールなどを混在させ、新しいライフスタイル*を体験し、学ぶことのできる場として機能を充実します。

ガーデンを活かした体験型施設として、フラワーアレンジメントなど各種クラフト教室、また、草津宿の伝統工芸などの体験型施設が考えられます。

■レンタルサイクル

延長の長いガーデンミュージアムの移動手段としてレンタルサイクルを導入し、そのメインステーションを区間⑤に配置します。

通常の貸出業務のみならず、ブランドバイクの試乗・レンタル、メンテナンス講座、交通安全講座などの展開も考えられます。



4.4 「歴史と景観を演出する」シンボル空間計画

(1) シンボル空間*計画の考え方

旧草津川は、東海道・中山道により形成された宿場町のほとりを流れ、周辺には宿場町の名残をとどめるまちなみが残り、追分や社寺など、歴史的な資源が点在しています。また、江戸中期より土砂の堆積による河床の上昇と治水対策としての築堤により、周辺の土地よりも川床が高い天井川*として、独特の地形が形成されました。

草津川跡地の整備に際しては、このような草津川跡地の固有の歴史の継承や、景観条件を活かしながら、個性的なランドスケープ*が形成されるよう、シンボル空間として演出します。

(2) 堤体の特性を生かしたシンボル空間

草津川跡地の天井川としての地形を生かしながら、より親しみやすく、魅力的な空間とするため、次のような空間演出を図ります。

■堤体構造の保全

堤体は、極力、現堤体の名残をとどめるよう、造成計画において配慮します。区間⑤は、現堤体構造を原則保全することとし、天井川としての歴史をとどめる場とします。



■桜並木の保全

堤体に植樹された桜並木は、長い間市民に親しまれ、旧草津川の面影をとどめる景観資源として機能しています。桜並木を極力保全するとともに、必要に応じて樹木の更新や補植などを施し、将来への継承を図ります。



■眺望景観の活用

草津川跡地は、平坦地の多い草津市において、まちの身近な高台を形成し、家並みを見渡す視点や旧河道の広がりを活かした、優れた眺望が展開しています。

以下に、眺望景観の活用の例を示します。

[比叡山の眺望の活用]

オープンスペース*など眺望の開ける空間を適宜配置し、比叡山を望む場を確保します。



注：文中の*は「参考資料 用語解説」で用語の解説を記載しています。

〔堤体上や橋梁部からの視線を意識した空間デザイン〕

旧川床部の整備に際しては、堤体上や橋梁部から見下ろされる特性を生かし、植栽・空間のデザインを工夫します。

〔街道を望む眺望点の整備〕

草津川マンボ*上部では、街道沿いのまちなみを望むことのできる展望施設を整備します。

■効果的な照明計画

夜間でも緑地を安心して利用できるよう、適度な灯りを確保する照明を設置します。その際、草津川跡地の「長さ」を活かした夜間景観の演出となるよう、明かりの連なりなどを効果的に見せるデザインに留意します。

間接照明やシンボルツリー*のライトアップ、フットライト*の活用など、利用者の視点に立った効果的な照明デザインを図ります。



(3) 歴史的資源を生かしたシンボル空間

街道沿いのまちなみが広がっており、これら歴史資源との調和・活用を踏まえたシンボル空間*の演出を図ります。

■街道歴史資源との調和・活用

東海道、中山道沿いのまちなみは、草津市の大きな観光資源です。草津川跡地の整備は、街道景観との調和に配慮するとともに、歴史的環境を活かした魅力ある空間・施設などの整備を図ります。以下に、街道歴史資源との調和・活用の例を示します。



「国史跡草津宿本陣」

注：文中の*は「参考資料 用語解説」で用語の解説を記載しています。

[歴史的環境を活かしたにぎわい施設の導入]

「マルシェガーデン*」としてにぎわい施設の導入を図る区間⑤では、古くからの商家の工芸品や職人技などを活かし、体験型施設やショップなどの導入を検討します。

[東海道の入口空間の演出]

東海道に接し、東から草津宿へとつながる区間⑥では、歴史的環境を演出する和風の植栽・空間デザインを施し、歴史的まちなみへの導入部を演出します。

[歴史的まちなみと調和した堤体デザイン]

街道の分岐・合流点、草津宿本陣や草津川マンポなど歴史的遺産が所在する区間⑤周辺においては、歴史的なまちなみとの調和に留意し、瓦や石材など、伝統的素材による施設デザインを図ります。

特に、堤体と接する追分においては、堤体・街路デザインと一体的な空間演出を図り、史跡を活かした歴史的環境を形成します。

■草津川マンポの改修

駅前商店街に位置する草津川マンポは、明治期に整備されて以来、旧草津川により分断されていた草津市中心市街地の南北を結ぶ交通施設として利用されてきました。また「草津のマンポ」として、開設当時から市民に親しまれてきました。ここは、草津川跡地にとって、にぎわいの中心となる「マルシェガーデン」へのメインエントランスとして重要な位置づけにあります。

草津川跡地の整備にあわせて草津川マンポを改修し、歴史的環境との調和を図りながら、ランドマークとしてのデザイン性や機能の向上を目指します。また、段差を活かしながら草津川跡地へのメインエントランスとなる広場を整備し、中心市街地からのスムーズなアクセス*を確保するとともに、イベントなどの場として活用します。



草津川マンポ南側の入口広場のイメージスケッチ

注：文中の*は「参考資料 用語解説」で用語の解説を記載しています。

(4)交差点を生かしたシンボル空間

草津川跡地は、市内中央部を東西に延長約 5.7km で横切っており、南北方向の幹線道路と交差点を形成しています。これらの交差点は、広域幹線道路や周辺市街地から草津川跡地へアクセス*する主要な入口部として機能するとともに、区間延長の長い草津川跡地において、空間の節目を構成しており、メリハリある景観形成を図る上で重要な役割を担います。

上記の位置づけを踏まえ、主要交差点は、緑軸*へのエントランス空間として、広場整備を図るとともに、施設デザインやシンボルツリー*などによる交差点ごとの特色づけを図り、ランドマーク*性の高いシンボル空間を演出します。

(5)日常空間のシンボル空間化

草津川跡地は、遠方からの利用者だけでなく近隣住民に親しまれる空間でもあります。これから整備する入口広場については、高木やパーゴラなどの公園的な施設により特徴のある広場を計画します。また、これらの施設については、憩いの場所になることを目指しています。

さらに、これらの広場は災害時においても、近隣住民の避難の目印や家族の集合場所になるような機能も持ち合わせます。

(6)シンボル空間の整備手法

シンボル空間の整備にあたっては、ワークショップ*など住民参加方式による手法を積極的に活用します。また、シンボルツリーの植樹祭などを実施することで、草津川跡地への愛着を育み、維持管理などへの市民参加の契機としていくことも考えられます。

景観上特に重要な空間・構造物の計画にあたっては、アイデアコンペ*を開催するなど、幅広く当地の試みをアピールし、かつ市民の計画への関心や参加機会をつくることを今後検討します。

注：文中の*は「参考資料 用語解説」で用語の解説を記載しています。

4.5 「安全と快適を追求する」動線計画

(1) 動線計画の考え方

■生活を優先した道路整備

草津市では、円滑な交通環境と良好な都市環境の形成のために、国道1号や大津湖南幹線、下笠下砥山線、青地駒坂線などの幹線道路や、その他の都市計画道路などを配置・計画しています。

草津川跡地道路は、跡地に整備されるにぎわい施設や沿道利用を主体とした交通に対応し、商店街の買い物道路や住宅地内の道路のような地域密着型の生活道路として整備します。

■歩行者、自転車に安全・安心で快適な空間の確保

草津川跡地の施設を利用する際には、自動車のほか、歩行者・自転車など多様な交通手段による連絡が想定されます。それら交通が錯綜することなく安全かつ快適に利用できるよう、歩行者・自転車・自動車の交通空間を分離し整備します。

バリアフリー*対応として、歩行者・自転車道の段差処理に留意し、ベビーカーや車いすなどの利用に配慮します。草津市のシンボリックな施設である草津川マンボ*では、にぎわい空間へ至るエレベーターを設置します。

草津川跡地全体の利便性を高め、敷地内を容易に移動できる交通手段として、コミュニティ・バス*やレンタルサイクルなどの導入を検討します。また、自動車からモーダルシフト（自動車からバス・自転車などへの転換）を図るために適正な規模の駐車場を配置します。

■効率的な土地利用の促進

草津川跡地ができるだけ効率的で有効に活用できるよう、現在の堤防位置に道路を配置します。

特に、区間④においては、草津川跡地と隣接する野村運動公園、市営住宅跡地のそれぞれの計画が、一体的な土地利用が図れる道路計画とします。

■既存道路の改善

現状において、草津川跡地道路に接続している道路は、新規道路整備においても交差点を設け、既往の交通機能を維持します。草津川跡地道路は、河川であったため橋梁部が高くなる凸型（太鼓状）の縦断でした。この凸型縦断を解消し、見通しのきく安全な道路へ改良します。

沿道利用に配慮し、既存の取り付け道路の改善や利便性向上のために新たな取り付け道路についても考慮します。適切な改良などを行うことで、現状の生活動線の安全性とスムーズな交通流動を確保します。

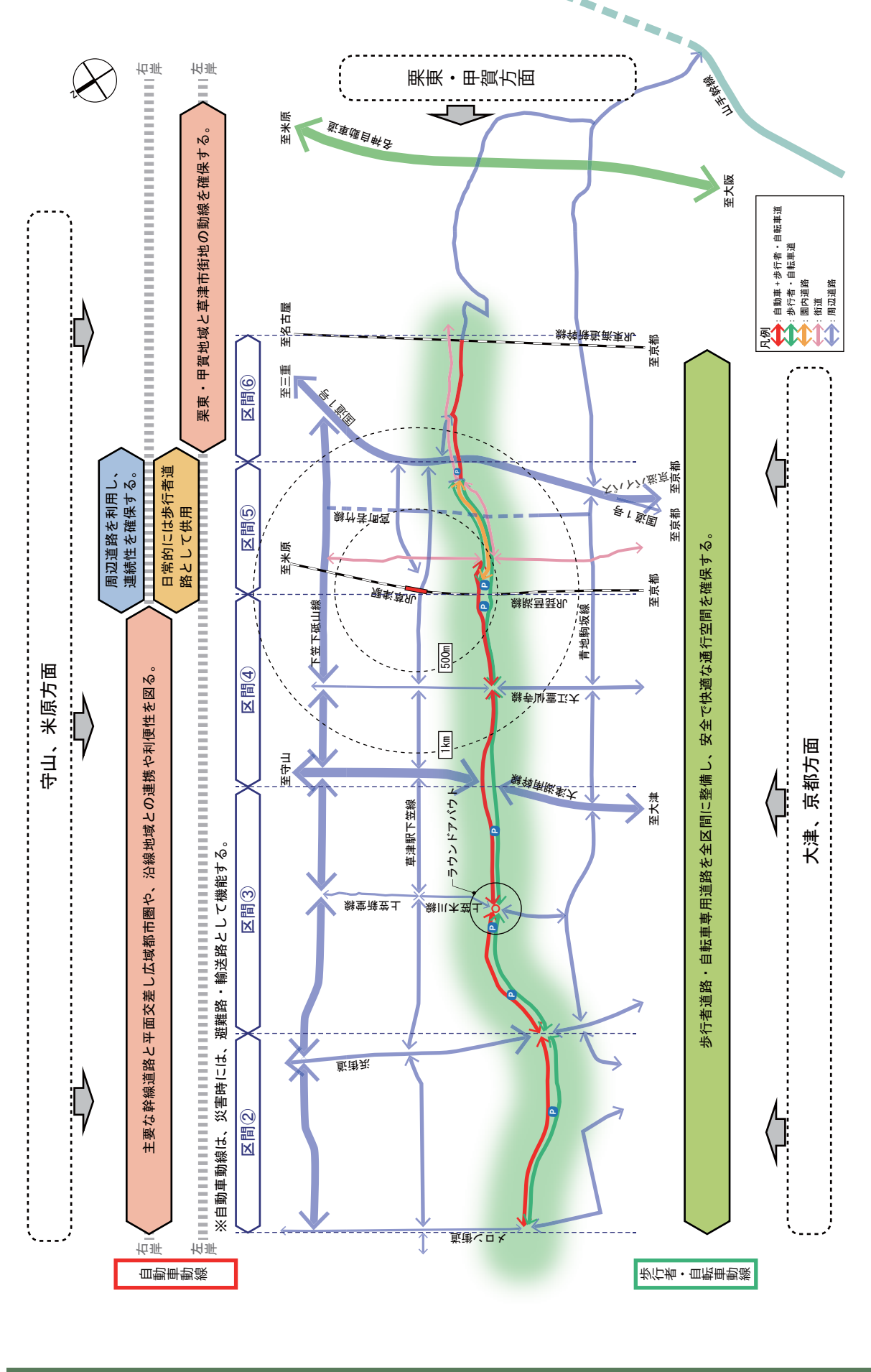
■緊急時・災害時の移動・輸送路の強化

区間⑤の道路は、歩行者専用道路として一般車両の通行は行いませんが、緊急時・災害時には、緊急車両を通行させ、琵琶湖から広域交通の要である国道1号や山手幹線などにつながる移動・輸送路として利用します。

草津川跡地が災害時の避難地として容易に周辺道路から跡地内へ進入できるよう、道路や階段を改良するとともに新たなアクセス*路を整備します。

注：文中の*は「参考資料 用語解説」で用語の解説を記載しています。

草津川跡地道路の位置づけ



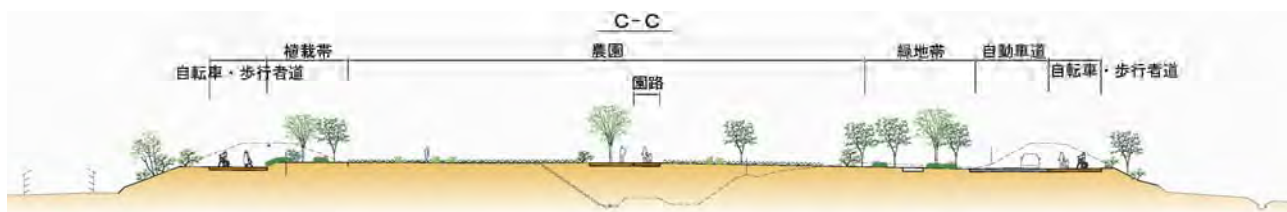
(2) 道路計画

①区間②、③、⑥

区間②、③、⑥については、堤体上の既存道路を活かしながら、延長の長い草津川緑地への自動車アクセスを確保します。

道路位置は、オープンスペース*をできるだけ効率的に確保できるように、自動車道を端に寄せ、自動車道の片側に歩行者・自転車道を併設する構造とします。また、区間②③では自動車道の対岸において歩行者・自転車道を配置し、自動車交通から隔てられた歩行者・自転車の専用空間を確保します。

区間②標準断面



区間③標準断面

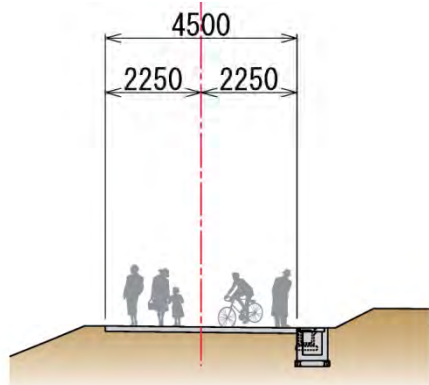


区間⑥標準断面



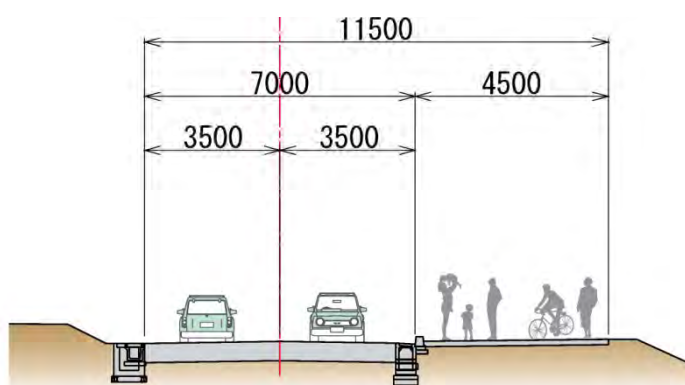
道路標準断面

(区間②、③、④：歩行者・自転車道)



道路標準断面

(区間②、③、⑥：自動車道+歩行者・自転車道)



注：文中の*は「参考資料 用語解説」で用語の解説を記載しています。

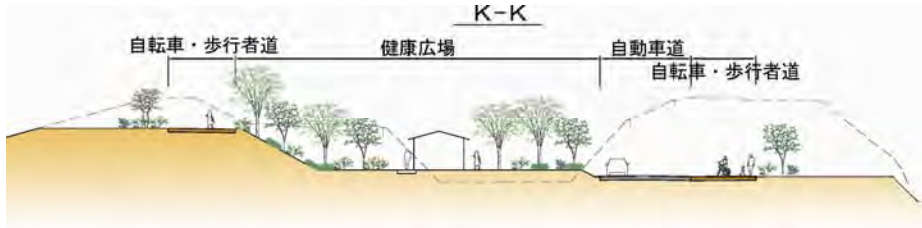
②区間④

区間④では、隣接する野村運動公園・市営住宅跡地と草津川跡地が一体化した土地利用が図れるよう、道路を片側に寄せます。

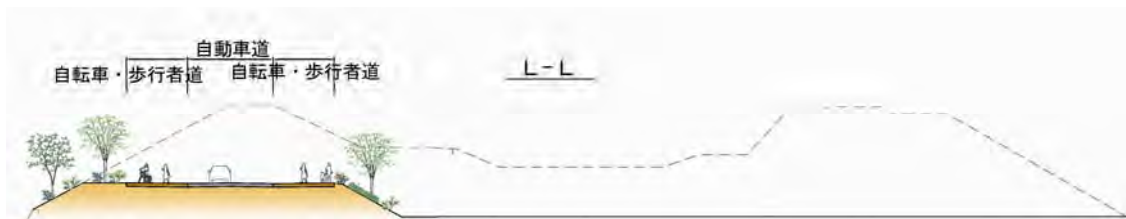
自動車道の両側は、歩行者・自転車道を配置し、動線*の集約化を図り、沿道の利用の利便性を高めます。

J R琵琶湖線との交差部分については、J R用地の施設改良までの間は、現状の形態で利用します。

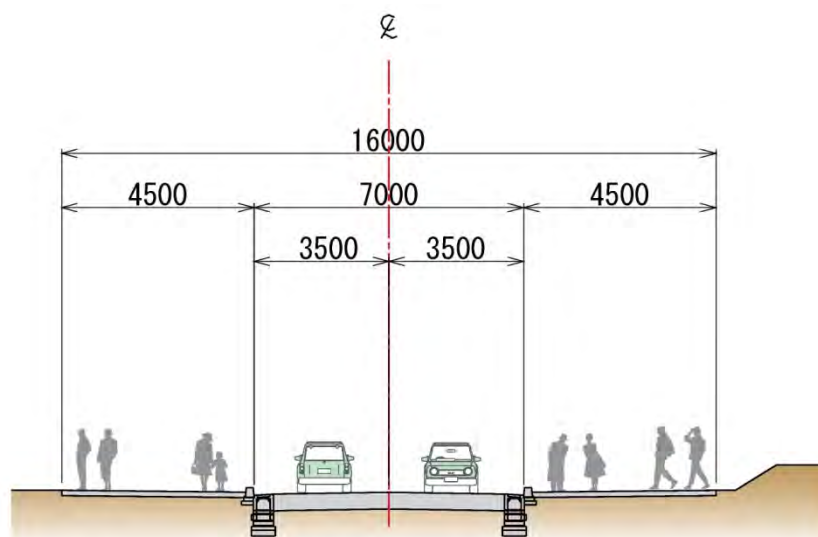
区間④標準断面 1



区間④標準断面 2



区間④道路標準断面図



注：文中の*は「参考資料 用語解説」で用語の解説を記載しています。

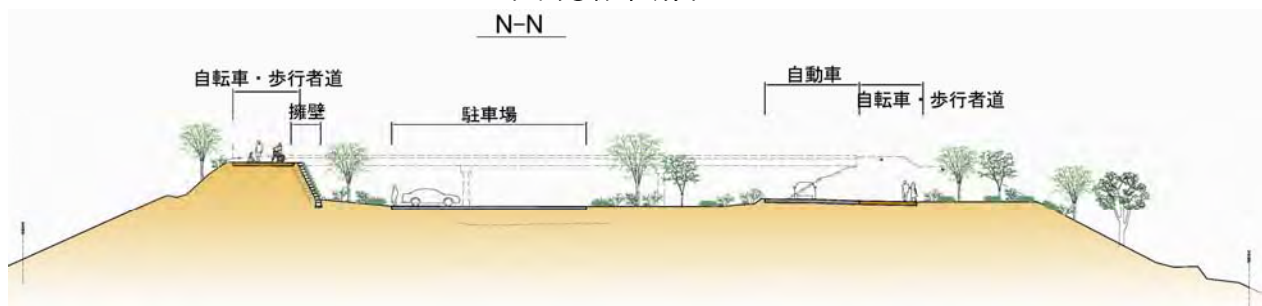
③区間⑤

区間⑤の道路は、一般車両の通行は行わず、にぎわい空間において人々が、「安全・安心」にガーデンミュージアム*の中心となるテーマガーデン*を楽しむことができるよう、歩行者専用路として整備します。

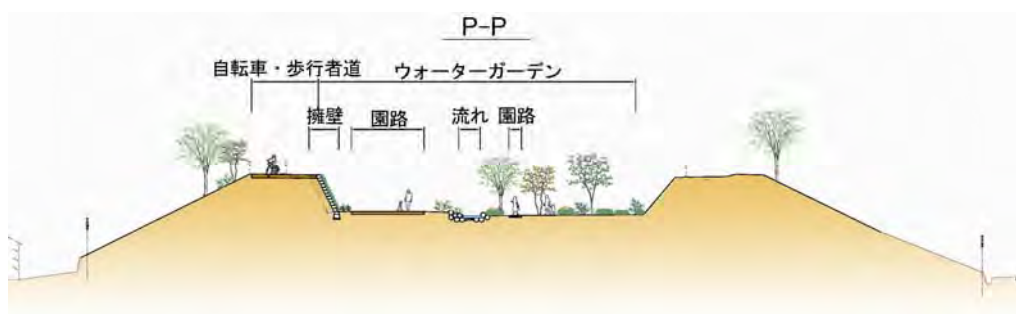
ただし、草津川跡地は本市の中心市街地、密集市街地を東西に横断する重要な防災空間でもあるため、緊急車両などの通行が可能な構造を確保し、災害時においては、救助活動や緊急輸送などの要となる道路として活用します。

自転車道については、堤体上の現道を活かした整備を行います。

区間⑤標準断面 1

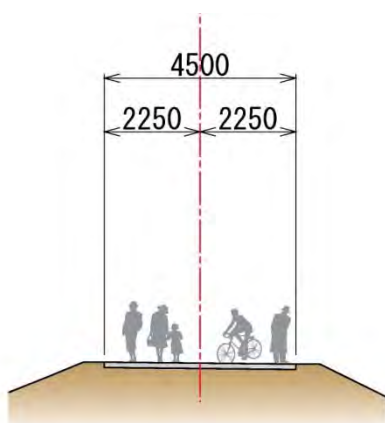


区間⑤標準断面 2



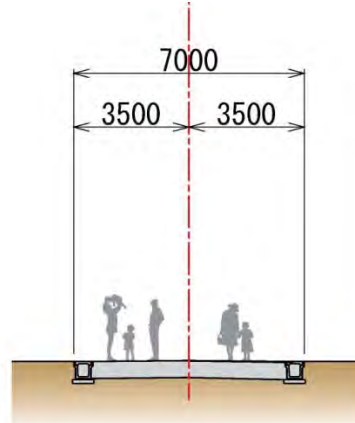
道路標準断面

(区間⑤：自動車道+歩行者・自転車道)



道路標準断面

(区間⑤：園路)



注：文中の*は「参考資料 用語解説」で用語の解説を記載しています。

(3) 交差点計画

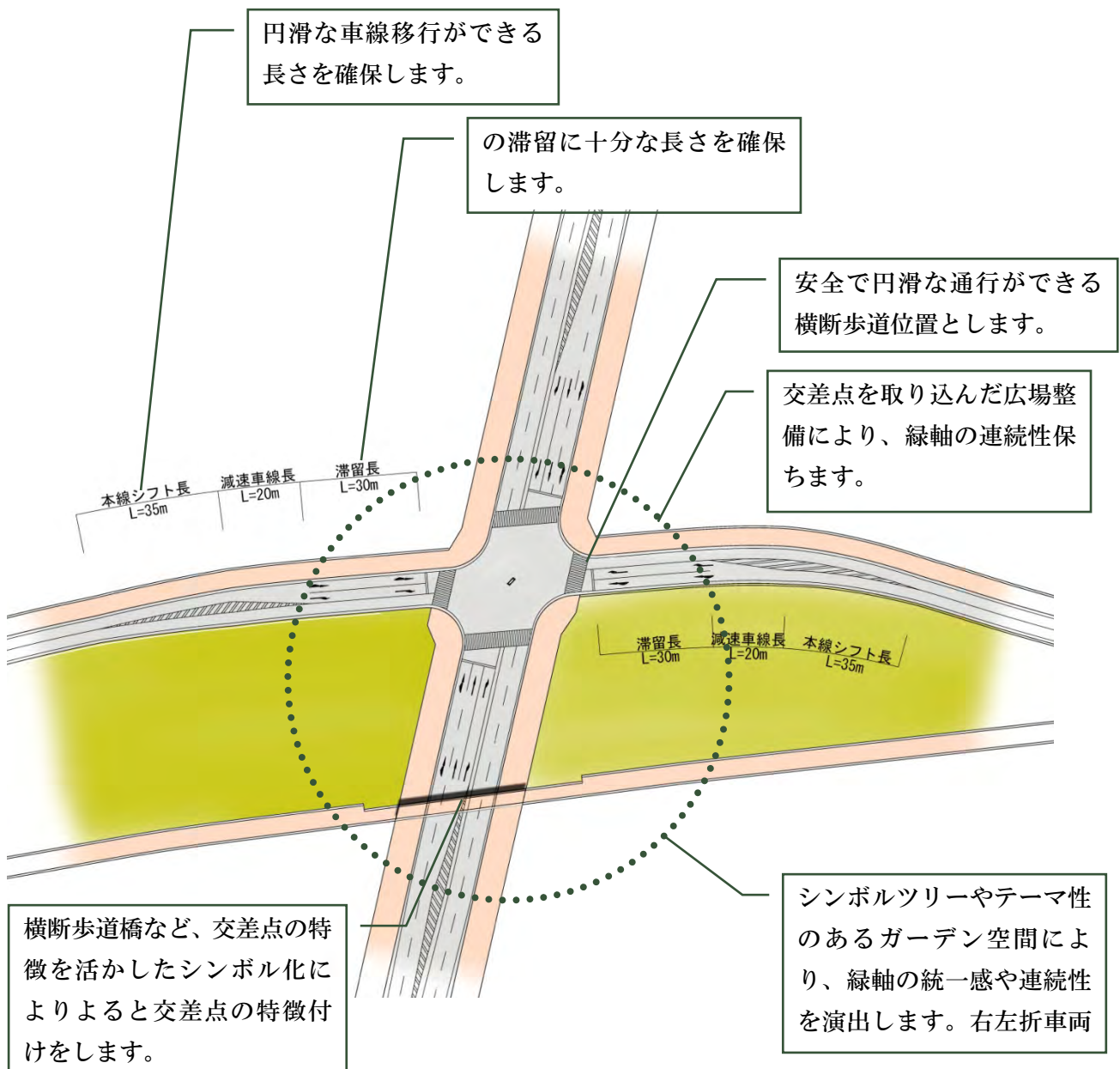
草津川道路は、市内中心部を東西に約 5.7km の延長で横切っており、南北方向の交通軸との間で交差点部（交通結節点）を形成します。これら交通結節点が各区間の特徴を示すゲート（エントランス）となります。また交差点部は、草津川跡地や周辺地域の回遊性を高めることが求められます。

交差点計画では、交通結節点が琵琶湖から市街地までの緑軸を分断することないように、「緑の結節点（シンボル空間）」とするとともに、モビリティの向上と、安全で円滑な交通処理を図る構造として整備していきます。

①一般部交差点

草津川跡地道路と交差する「メロン街道」、「浜街道」、「大津湖南幹線」、「大江霊仙寺線」は、広域的交通を担う幹線道路として機能しております。草津川跡地内道路は、平面で交差することで自動車や歩行者などの利便性を高めます。

一般交差点 一般図



②ラウンドアバウト*交差点

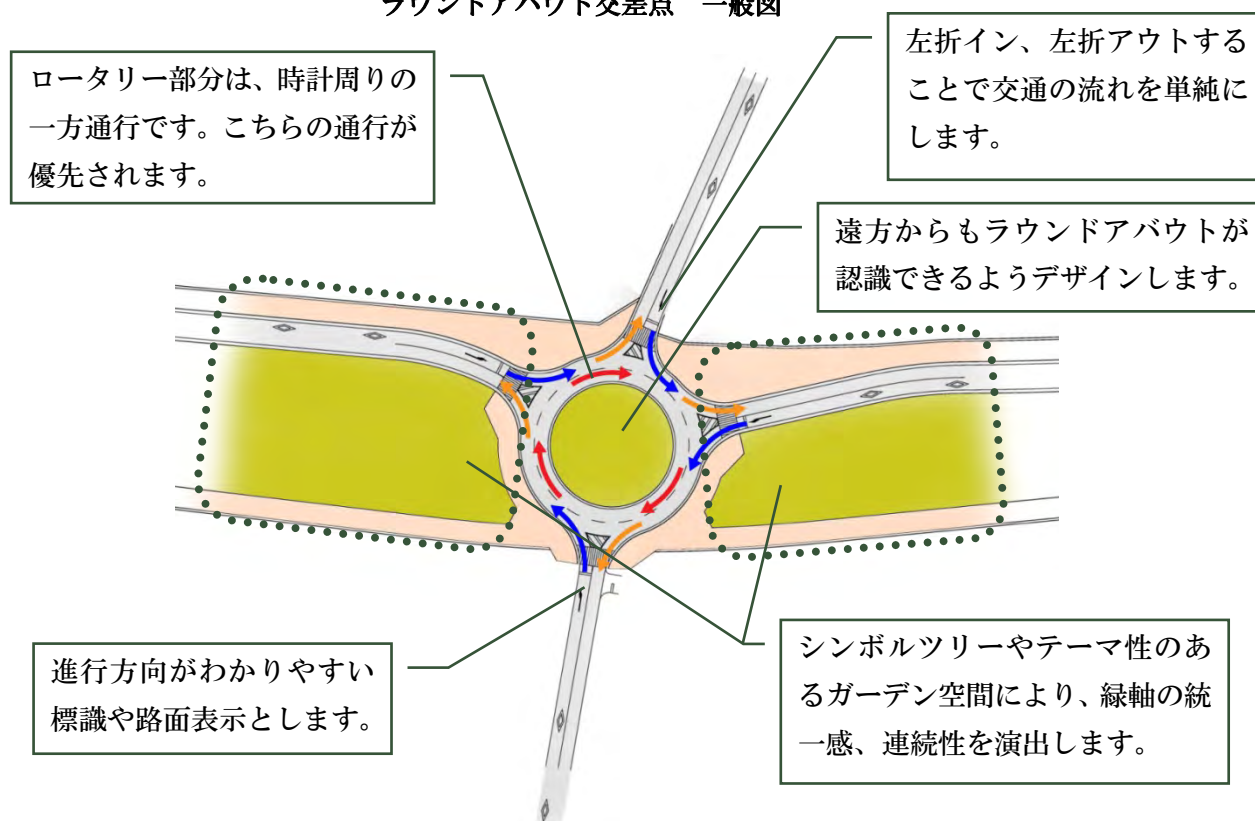
浜街道と大津湖南幹線の間位置する市道上笠木川線との交差は、比較的交通量が少ない道路との交差のため、信号を設けなくても安全で容易に交通処理が可能なラウンドアバウトを設置します。ラウンドアバウトの導入により、次の効果が見込まれます。

- 車両の挙動が単純（左折イン・アウト）で優先順位が明確であるため、交差点内での運転が常に容易になります。
- 交差点内をまっすぐに突っ切ることができないため、進入する車両は必ず減速します。事故発生を軽減できます。
- 信号設置による費用および、維持管理費が削減できるため経済的です。
- 交差点内に車両が無い場合、速やかに交差点内に進入が可能となり、遅れ時間が削減でき、また、騒音やCO2*の削減に寄与します。
- 中央島の設置により、ドライバーや歩行者からの視認性が高まり、交差点をシンボル*化できます。



※ラウンドアバウト：ロータリー状の一方通行型の交差点で、安全かつ効率的な交点制御として欧米諸国で積極的に導入が推進されています。日本においても長野県飯田市で導入され、環境にも優しいと注目されている交差制御方法です。

ラウンドアバウト交差点 一般図



注：文中の*は「参考資料 用語解説」で用語の解説を記載しています。

4.6 「災害に備え、循環型を目指す」防災・都市環境計画

(1) 防災施設計画の考え方

① 防災空間と施設計画

草津川跡地は、市街地の中央部に位置する、オープンスペース*として、都市の貴重な防災空間となっています。また、堤体は周辺市街地から一段高い地形であり、視認性も高いため、防災施設の整備を行うことにより、その機能を充実し災害時の一時避難場所としての活用も期待されます。

<防災空間・施設の整備方針>

■市街地に隣接する一次避難場所として機能を充実

- ・周辺市街地からのアクセス*環境を改善します。
- ・安全・快適な避難場所として、積極的に防災施設・設備を導入します。

■防災拠点ネットワーク化による防災機能の強化

- ・緊急車両の通行が可能な道路構造を確保します。
- ・周辺の防災拠点と一体的利用を想定した広場・施設などの配置を図ります。

■非常時のライフラインの確保

- ・積極的な自然エネルギーの活用を図り、非常時のライフライン*を確保します。

一般に防災公園では、これまでの教訓により、災害発生前から復旧・復興に移行するまでの時間を想定した利用方法が明らかにされています。草津川跡地において、それらの機能に必要な防災施設について検討しました。

注：文中の*は「参考資料 用語解説」で用語の解説を記載しています。

②防災施設の内容

草津川跡地の導入予定施設は、災害発生における時間経過と防災機能に対し◎印を付けた施設を考えています。

防災機能 防災関連施設など	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	草津川跡地の導入予定施設	備考
	避難（一時的避難および広域避難）	災害の防止と軽減、および避難スペースの安全性の向上	情報の収集と伝達	消防・救護、医療・救護活動の支援	避難および一時的な避難生活の支援	防疫・清掃活動の支援	復旧活動の支援	各種輸送のための支援		
□園路・広場										
入り口形態（整備形態）	●			●	○	○	●	○	◎	
外周形態（整備形態）	●								◎	
広場	●	●		●	●	○	●	●	◎	
園路	●			○	○	○	○	○	◎	
ヘリポート				○			○	●		
□植栽（防火樹林帯）	●	●							◎	
□水関連施設										
耐震性貯水槽				●	●					
非常用井戸				●	●				◎	
水施設（池・水流など）				●	●				◎	
散水施設（防火樹林帯、避難広場、入口部）		●							◎	
□非常用便所					●				◎	
□情報関連施設										
非常用放送設備	○		●	○	○				◎	
非常用通信設備	○		●	○	○	○	○	○		
標識および情報提供設備	○		●						◎	
□エネルギー、照明関連施設										
非常用電源設備	○	○	●	○	●				△	
非常用照明設備	○			○	●				◎	
□備蓄倉庫	○			○	○	○				
□管理事務所	○		●	○	○	○	○	○	◎	
○修景施設										
日陰だな				○	○				◎	
つき山	○	○							◎	
○休養施設										
休憩所、ベンチ、野外卓				○	○				◎	
ピクニック場	○	○		○	○				◎	
○運動施設										
グラウンド	○	○			○	○	○	○	◎	
乗馬場					○		○		◎	
○便益施設										
駐車場	○			○		○	○	○	◎	
売店、飲食店				○	○				◎	
水飲み場、手洗い場				○	○				◎	
○管理施設										
倉庫、車庫、材料置場				○	○	○	○	○	◎	
ごみ処理場					○	○				

●：直接的に対応する施設

○：間接的、補完的に対応する施設

◎：草津川跡地の導入予定施設

△：草津市が災害時に用意している施設

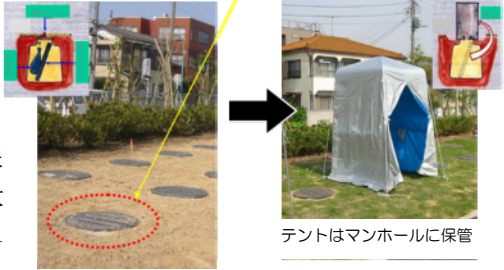
[草津川跡地で考えられる防災施設の例]

必要な施設のうち、代表的なものの整備の目的、整備の形態などを以下に例示します。

■避難広場

整備目的	避難者が安全に避難できる場、あるいは救援活動などの場、応急的な避難生活の場を確保する。	
概要	<p>避難広場の有効面積は、避難対象人口に1人当たり避難面積(1~2㎡、できるだけ2㎡以上)を乗じて設定する。</p> <p>大火が起きても避難者の安全が確保できるよう配慮する。</p> <p>安全後退距離については地域の卓越風向や風力、周辺市街地の火災危険度などより、柔軟かつ慎重に検討することが必要である。</p> <p>入口部や防火樹林帯、池などの開水面との位置関係に配慮する。</p> <p>広場内において避難動線と救援動線が交錯しないよう配慮する。</p>	

■仮設トイレ


整備目的	断水により常設の水洗トイレが使用不能になった場合に、避難者の一時的な避難生活における利用に供する。	
概要	<p>常設便所などの兼用タイプや仮設タイプなどさまざまな形態が開発されている。</p> <p>非常用便槽付き常設便所、汚水管直結型、地下埋設、組立式など多様であり、管理体制などに応じて選択する。</p> <p>し尿処理方法も大量に貯留でき汲み取るものや、汚水系統が復旧されればそのまま排水できるもの、バクテリアや熱処理、凝固剤などを利用して、固化・減量化が図れるものなどさまざまである。</p> <p>非常用便所は緊急段階の2~3日間に対応するとの考え方から、便槽の規模も避難対象人口に対して2~3日間対応できる規模で設定するケースが多い。</p> <p>便槽容量は、避難対象人口×1人1日あたりし尿量1.5~2.0L/人・日×2~3日で算出される。穴数については、同時使用率として60~100人当たり1穴を標準とする。</p>	<p>通常時はマンホール状</p>  <p>テントはマンホールに保管</p>

■防災パーゴラ


整備目的	屋根のある施設として災害時に多様な利用が期待される。	
概要	<p>パーゴラはビニールシートで覆うことで、シェルターとして利用できる。</p> <p>大型のシェルターではトイレなどの設備をする他、フォークリフトが利用できる軒高とし、シェルター内のベンチも取り外せるように配慮することが必要である。</p> <p>隣接する園路広場より一段高い荷置場を設定することで、トラックへの積み降ろしも容易となる。</p>	<p>非常時にはテントを張ることができる</p> 

■炊き出しベンチ

整備目的	災害時の炊き出しを可能とする。
概要	<p>縁台や野外卓は利用方法の自由度が高く物資の仮置場や給仕作業場などとしての利用も想定できることから、配置や構造検討にあたってはこれらの機能にも配慮が必要である。</p> <p>また、野外卓や縁台は、台の下部にデッドスペースがあるため、設計上の配慮で小規模な資材を備蓄することが可能である。</p>




座板を外せば煮炊きができる




■太陽光発電式 LED 照明

整備目的	災害時の避難場所への誘導、非常用照明となる
概要	<p>日中の太陽エネルギーを電気に変換して電池に蓄え、夜間の屋外照明として利用する。公害・騒音がなく、クリーンなエネルギーで、省エネ効果があります。日常的には園路照明として利用され、災害の際、夜間停電時には避難場所の目印となり、また非常用照明としての役割も果たします。</p>



■手回しポンプ

整備目的	災害時の上水道の寸断など、断水時に、上水の代用などとして使用する。
概要	<p>平常時は、植栽への散水や中水程度の水質で許容される洗浄などで利用し、また防災訓練の際、例えばバケツリレーなどの消火用水として利用する。災害時には、消火用水の他、仮設トイレの洗浄用水や手洗い用の水などとして利用する。</p>



(2) アクセス路の整備

草津川跡地へのアクセス路は、沿線から「5分で安全な場所へ」を基本的な考え方として、以下の内容による整備を検討します。具体的な整備は、今後詳細設計を実施していく中で、地元の方々とのワークショップ*などを通じ必要な個所の検討を行うことも考えていきます。

<アクセス路整備の方向性>

- ・ 右岸左岸それぞれに、概ね 300m 間隔に 1箇所アクセスできることを基本とします。
(※高齢者の歩行速度 0.5m/s とすると、5分では 150m 移動可能となることから、300m 間隔であれば中間の 150m で対応可能。)
- ・ 災害時に、迅速且つ平易に駆け上がれるように、幅 2.0~3.0m を確保した通路の整備を行います。
- ・ アクセス路の縦断勾配は、地形なども考慮して可能な限り 5% 以内を目標とします。
- ・ 手摺やロープなども適宜設置していきます。

注：文中の*は「参考資料 用語解説」で用語の解説を記載しています。

(3) 防災拠点のネットワーク化

草津川跡地沿いには、広域避難所*や防災ステーション*など拠点的な防災施設が立地しており、防災拠点をネットワーク化する軸として草津川跡地を活用します。

特に、草津川跡地に隣接する以下の防災施設については、積極的な機能連携を図り、非常時の一体的な利用に対応します。

■給食センター

区間②の浜街道沿いに、給食センターの整備が進められています。草津市地域防災計画では、災害時に炊き出し拠点として機能する計画となっています。

草津川跡地と、連携を図ることで、避難者・支援者への飲料などの救援物資や食糧の提供ステーションとしての利用や、救援物資の集積・積替・配送を行う輸送拠点としての利用が考えられます。

■野村運動公園

広域避難所に指定されている野村運動公園との一体的土地利用を目指します。

草津川跡地において積極的な防災施設の導入を図ることで、広域避難所としての機能の高度化を図ります。

■河川防災ステーション*

草津川跡地の上流部には、草津川防災ステーションが整備され、水防資材の備蓄など水防活動の拠点として機能するほか、ヘリポートとして利用できるなど、搬出入・災害復旧の拠点としての機能も備えています。区間⑥の整備に当たっては、国道1号から防災ステーションまでの道路を改良することにより、防災ステーションへのアクセスを向上させます。同時に草津川跡地との連携を強化し、栗東市側への広域的な防災拠点に資する利用も考えられます。

■その他防災拠点

このほかにも、広域避難所や備蓄倉庫、ヘリポートなどの機能を備える防災拠点が草津川跡地沿いに多数立地しています。非常時においてこれら施設間の移動や輸送がスムーズに図れるよう、草津川跡地内の道路・散策路が緊急車両の通行に対応する道路構造を確保します。

注：文中の*は「参考資料 用語解説」で用語の解説を記載しています。

(4) 広域防災への対応

草津市では、平成24年3月に地域防災計画を改定し、大災害による直接的な被害の対策に加え、被災地への救援や救助、緊急・応急復旧の支援体制について言及し、広域的な支援についての検討を行うとしています。基本計画の中では、草津川跡地と周辺施設の連携による広域防災への貢献について考えました。

①立地特性からの広域支援への展開

草津市のある琵琶湖東部は、北国街道、東海道、中山道と街道の集まる地域でした。現在も、名神高速道路、新名神高速道路、北陸自動車道、国道1号、国道8号と言った陸上輸送の広域幹線が集まり、草津市を通過して阪神圏と東海地方、北陸地方が結ばれています。南海トラフ巨大地震では、西日本の広範な地域で大きな被害が予想され、太平洋沿岸だけでなく、大阪府、兵庫県でも津波による浸水被害が予想されます。主要幹線道路の結節地である草津市は、広域支援拠点や日本海側からの輸送拠点として機能を果たす可能性があります。

②周辺施設との連携による広域支援への展開

草津川跡地は、市内を東西にわたって横断しているため、本計画における道路が整備されることで、市内を南北に横切る広域幹線と接続し、広域輸送道路網の一部を形成します。草津川跡地道路は、広域幹線を結ぶ補助的な役割を果たすことができます。

草津川跡地に隣接する弾正公園、野村運動公園や市立小中学校などは、草津市地域防災計画において、備蓄機能やヘリコプター離発着機能を担う施設に設定されており、それぞれの防災拠点が草津川跡地でネットワーク化されます。

弾正公園や野村運動公園は、運動施設であるためグラウンドや体育館などの施設があり、物資の一時的な集積や積み替えなどに利用できるため、草津川跡地との連携により、大型車の駐停車が可能となり、スムーズな輸送動線の確保に貢献することができます。

③草津川跡地での広域支援活動

草津川跡地では、東日本大震災時の岩手県遠野市のような広域的な支援拠点としての機能を果たす可能性が高まります。地理的な立地の優位性や周辺施設との連携、市域の東西を結ぶ道路機能により、4つの広域支援活動への貢献が挙げられます。

■広域的物資輸送拠点

弾正公園・総合体育館、野村運動公園、松原中学校などの施設との連携により機能します。

■緊急輸送路の補助機能

緊急輸送道路をネットワーク化する補助道路として機能します。

■災害医療ネットワークの構築

草津川跡地は、滋賀県の災害医療センターに指定される草津総合病院、済生会滋賀県病院と近接するため、災害医療のネットワークの構築がしやすい立地にあります。

■ボランティア活動の支援

JR草津駅周辺の民間宿泊施設は、災害時のボランティアスタッフの受け入れ施設としての可能性があります。

(5)都市環境計画の考え方

①都市環境施設導入の視点

第3章「都市環境デザイン」のコンセプトを踏まえ、草津川跡地においては、低炭素都市*づくりに向け、省エネルギー型施設の導入などに積極的に取り組みます。また、広大な草津川跡地より生ずるバイオマス*資源の有効活用により、無駄に廃棄物の生じない循環型システムの構築を目指します。

■低炭素都市*づくりへの寄与

草津川跡地における低炭素都市づくりは、環境面からの必要性だけでなく、地域経済活性化、市民協働の取り組みを呼び込む仕掛けづくりなどの面からも新しい成長戦略に位置付けられます。

具体的な取り組みとしては、再生可能エネルギーの活用、緑化などヒートアイランド*対策による熱環境改善、建物の効率化・環境共生、交通面での効率性・回遊性の向上などが考えられ、これらを市民協働によりハード・ソフトの両面から創り上げることが求められます。

■循環型の管理・運営システムの構築

草津川跡地では、その緑地を維持・管理していく上で、大量の剪定枝などのバイオマス資源の発生が想定されます。これらは単に廃棄物として処理するのではなく、緑地や農園の土づくりに活用するなど、草津川跡地内や周辺農家などの間で循環する仕組みの構築を目指します。

また、草津川跡地内には様々なにぎわい施設の立地を予定しており、これら施設間においても食品廃棄物の循環や、緑地から生じるバイオマス*燃料の利用など、先進的な循環システムの展開を検討します。

②みどりを活かした熱環境の改善

草津川跡地の存在そのものが都市の中の広大なみどり空間であり、ヒートアイランドなど都市の熱環境の改善に大きく寄与すると考えられます。

草津川跡地の整備に際しては、できるだけ浸透しやすい地表面を多くし、雨水浸透を促します。みどりや土による気象緩和効果の高い空間として整備します。

また、にぎわい施設などにおいては、積極的な壁面緑化・屋上緑化などを施し、室温の上昇を抑えるなど、みどりを活かした省エネルギー型ライフスタイル*を体感できる場としていくことも考えられます。

注：文中の*は「参考資料 用語解説」で用語の解説を記載しています。

③省資源・新エネルギー化の推進

草津川跡地においては、できるだけ環境に負荷を与えず管理・運営が維持されるよう、基盤施設や管理施設などの整備に当たり、省資源・省エネルギー型の施設を積極的に導入します。

■自然水の利用

広大な草津川跡地の緑地を育成し、また、様々なガーデン*活動・農業系施設を支えていく上で、水は最も重要な資源といえ、その調達に関してできるだけ省資源化が図れるよう、積極的に取り組んでいく必要があります。

[地下水]

旧河川である草津川跡地には、豊富な地下水の存在が期待されます。

地下水の積極的な利用を図るため、貯留槽を設け、深井戸からのポンプアップにより常時一定量の貯水を行い、ガーデニング*活動で散水の水源として活用します。

手回しポンプなどの設置により、市民に親しみのもてる工夫も行い、災害時は中水としての利用を図ります。

[雨水]

管理施設やにぎわい施設については、小型の雨水貯留タンクの設置も検討し、市民活動などで手軽に利用できる施設整備を目指します。



[透水性舗装]

地下水の涵養^{かんよう}を図るため、また、熱環境の改善を図るため、草津川跡地の路面・広場などの舗装は、透水性舗装を基本とします。

■太陽光エネルギーの利用

草津川跡地施設の電源については、できるだけ太陽光発電などを活用し、温室効果ガスの抑制に配慮します。

[自然エネルギーを活用した街路灯]

緑地を主体とする草津川跡地における電気使用は、特に街路照明での消費量が大きくなるものと考えられます。

電力使用量が少なく済むLED照明などの採用を図り、また、と太陽光発電パネルや風力により点灯する照明の積極的な活用により、省エネルギー化を推進します。

街灯の一部を太陽光発電パネル一体型の照明灯にすることにより、災害発生時、夜間停電時に避難する際、広場の目印や誘導灯の役割を果たします。



注：文中の*は「参考資料 用語解説」で用語の解説を記載しています。

[太陽光発電]

草津川跡地のトイレやにぎわい施設の建物などにおいては、太陽光発電パネルを設置し、照明・冷暖房などへの利用を考えます。

バッテリーを用いたシステムを組み込むことで、夜間停電時に建築物のエントランスや壁面の照明を点灯させ、災害時においても灯りによる安心を確保します。

また、規模の大きな太陽光発電パネルの設置用地として、堤体法面を活用することも考えられ、企業や市民参加型ファンドなどによる売電事業の展開なども期待されます。



ソーラーパネルによる屋根上の発電、屋根を緑化により室内への熱伝導を抑える工夫

■バイオマス*利用

広大な緑地である草津川跡地では、維持管理に伴う大量の剪定枝の発生が想定され、これを廃棄物として処理するのではなく、できるだけ資源として活用していく視点が重要となります。

[コンポスト*]

緑地の維持管理で発生する落ち葉や草、剪定枝などを、堆肥化する施設を設け、緑地やガーデン*、菜園などで利用し、循環させる仕組みを検討します。

にぎわい施設で発生する食品廃棄物、ふれあい牧場など施設で生じる糞尿なども含め、より大きなサイクルで相互に資源利用する仕組みとしていくことが考えられます。

**[伐採木利用]**

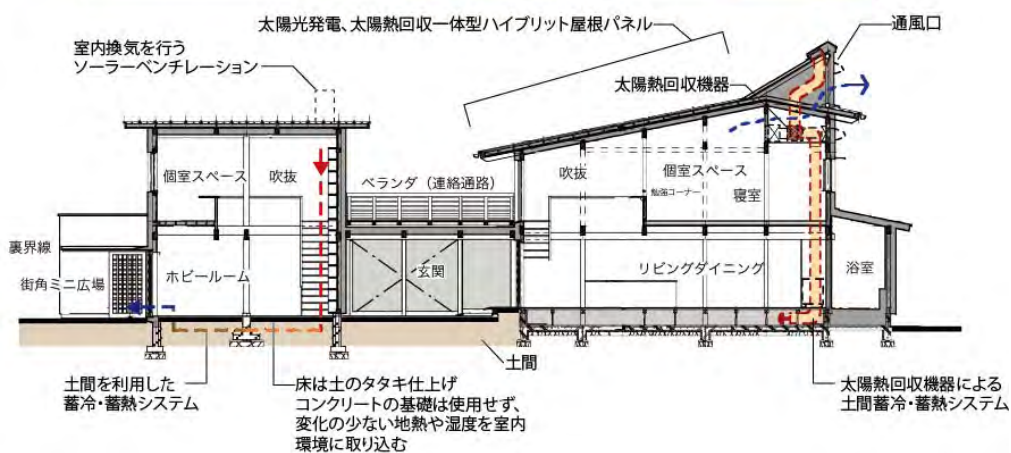
伐採木などの再利用としては、にぎわい施設において薪ストーブの導入など、熱源として活用することが考えられます。

注：文中の*は「参考資料 用語解説」で用語の解説を記載しています。

④エコタウン*開発

区間④では、草津川跡地と隣接空地を一体的に宅地化し、民間開発などの展開を想定しております。本計画の、ガーデンミュージアム*と調和する開発の方向性として、積極的に環境共生を打ち出し、民間活力を導入したエコタウン開発の展開などについて、検討を進めます。

エコタウンでは、モデルハウスの建設による環境への取り組みの啓発や、低炭素社会実現に向けた先進的なエコ住宅*の建設による、まちづくりの実践が考えられます。



エコ住宅の事例

⑤環境関連活動の展開

近年、環境への関心は広く市民に進展しており、草津川跡地で想定している地域コミュニティ*活動の活性化やエリアマネジメント*への市民参画の契機として、環境活動を積極的に展開していくことを検討します。

■市民活動などに伴う資源循環の実践

市民のガーデニング*活動などにおいて発生した草・剪定枝などは、コンポスト*で堆肥化し、また、散水などでは、積極的に雨水利用を図るなど、資源循環に配慮します。

維持管理に伴い発生した伐採木を活用し、炭焼き体験や木工体験などの里山サークル活動などを展開します。

■環境教育の展開

草津川跡地内の植物や昆虫を生かした環境学習や、森づくり・農場などでの体験学習、循環型施設の見学会など、ここでの循環型まちづくりのPR・情報発信を含め、様々な形での環境教育実践の場として、草津川跡地を積極的に活用します。

注：文中の*は「参考資料 用語解説」で用語の解説を記載しています。

4.7 基盤整備計画

(1) 造成計画

①造成上の基本方針

■有効空間の確保

ゾーニング*に応じて想定される様々なレクリエーションやイベント、野外活動などの場として適切なスペースが確保できるよう、区間ごとの機能に応じた造成計画を図ります。

■堤体地形の保全

土地利用上、現状地形の改変を強く要することのない区間については、天井川*としての名残をとどめるよう、できるだけ堤体形状の保全に努めることとします。

②造成計画

■区間②

区間内で、切土と盛土が等しくなることを重視して計画を行います。

堤体と旧河道の段差を区間内の切り盛りで均し、農的空間として活用できる平地部分を確保するとともに、周辺農地と一体化する景観を形成します。

■区間③

周辺とのアクセス*がスムーズになることを重視して計画を行います。

大津湖南幹線との交差点については、右岸左岸とも現状の交差点高さを変更しないものとします。上笠木川線との交差点となるラウンドアバウト*部分は、見通し確保のため全体的に周辺の住宅地の高さにできるだけ近づける計画を行います。

■区間④

野村運動公園、市営住宅跡地の土地利用の効率化を考えた計画を行います。

右岸道路は現状で、大津湖南幹線、大江霊仙寺線共に平地化されているため、土地利用の有効化の観点から全面的に平面化することとし、JR横断部については、現状の利用形態を守る形状とします。

左岸道路については、西側の大津湖南幹線の立体交差とJR琵琶湖線の立体交差を現状のまま利用するものとしますが、それ以外の部分については右岸道路と合わせて平地化する計画とします。

■区間⑤

にぎわい施設の有効利用面積を増やすと共に、舗装、埋設物などの施工性を考慮し、現況河床に対しおおむね1.0mの盛土をするものとします。

周辺地区とのアクセス性の改善を図ることを目的とし、草津川マンボ*西側にはアクセス広場を設け堤体を一部除去する形で階段広場や、エレベーターなどの施設を設置します。

西側の大路16号線と草津2号線の交差部に関しても、草津川橋と堤体を除去し、それぞれの道路が河床で交差する交差点として計画を行い、バリアフリー*勾配の5.0%でアクセスができる形状にするものとします。

注：文中の*は「参考資料 用語解説」で用語の解説を記載しています。

■区間⑥

原則、天井川*の構造を残す現地形を保全することとしますが、栗東市との行政界部分の具体的な計画が決定した時点で、改めて造成計画を検討します。

(2)供給処理計画

①給水計画

給水施設は、通常の施設利用に供する上水施設と各種ガーデンに散水する中水施設の2系統による施設整備を行います。

上水道は、にぎわい施設などの建築物への給水と、屋外トイレ、水飲み・手洗いなどへの給水を行います。

中水は地下水を活用します。各区間に1箇所の深井戸（D=100m程度）を掘削し、井戸水を耐震性貯水槽に貯留した上で、加圧給水ユニットを經由し各散水栓へ配水します。この貯水槽については、火災時や災害時の活用も想定しています。貯水槽の設置にあたっては、消防と協議し適正な配置を目指します。

②雨水排水計画

敷地内の雨水排水は、草津川道路に設置する雨水本管により集水し、既設の水路などへ排水します。接続する場所については、現況施設の流域や排水能力に合わせ適宜設定し、必要な場合は既存施設の改修を含め検討を進めます。

また、草津川跡地の整備においては、透水性舗装*や浸透柵*などの設置により地下水のかん養に努めます。さらに管理棟やにぎわい施設などの建築物については、小型貯留槽の設置を制度化するなど、雨水の打ち水や散水などへの再利用を促進します。

③汚水排水設備計画

本計画では、にぎわい施設などの建築施設や、屋外トイレ、水飲み・手洗いなどから汚水排水が発生します。これらの汚水については、区間毎に集水し最寄りの公共下水道へ接続し排水します。接続する場所については、現況の流下能力に合わせ適宜設定します。

④電気設備計画

区間ごとに1箇所の受電点を設定し、配電盤を設置して各施設への配電を行います。草津川跡地内の各施設への電気の供給は、地中埋設にて行い、ガーデンミュージアムの景観や災害に配慮したものとします。

再生可能エネルギーの利用に関しては、建築施設などを中心に組み込みます。公共で整備する屋外トイレや照明灯については積極的に太陽光パネルの導入を検討します。さらに、にぎわい施設の民間建築には積極的な導入を促し、草津川跡地全体として取り組むものとします。



太陽光パネル設置イメージ

注：文中の*は「参考資料 用語解説」で用語の解説を記載しています。